

●先週は能登を訪れ、復興ボランティアに参加し、地震に次ぐ水害の被害に見舞われた輪島や珠洲の厳しい現状を目の当たりにいたしました。他の地域でも作業員不足で復興が遅々として進まない状況が1年近くも続き、自分たちは忘れられたのではないかという孤独な思いが現地にあることを覚えました。その中で、「ハチドリのひとつしづく」(エクアドルの民話)のような小さな働きではありましたが、被災地を忘れず共に復興への歩みを続けていくことの大切さを教えられました。

●イエス様は弟子たちを宣教へと送り出すにあたって繰り返し「恐れるな」と語られたとマタイは伝えます。この福音書が書かれた時代、キリスト者たちは激しい迫害にさらされていました。マタイの教会はその激しい迫害の中で、周囲に怯えながらの生活と宣教活動を強いられていたのだと想像できます。

しかしそのような中で、彼らにイエス様の声が響いたのです。「体を殺しても魂を殺すことのできない者どもを恐れるな」(28節)、「小さな雀も1羽残らず覚え、沢山ある髪の毛を一本残らず数えるように、神は小さなあなたを覚えておられる」祈る中で彼らが聞いたこれらの言葉はイエスさまの「愛」そのものです。たとえこの世で苦難、迫害をうけようとも、「恐れるな私が共にいる」と私たちの近くでささやいて下さるイエス様の愛から誰も私達を離す事はできない。そう聖書は告げているのです。

●また今日の福音書には「覆われているもので現されないものはない」(26節)と記されています。この言葉は、「隠された悪事はいつかは暴かれる」という意味ではありません。本当の意味で私たちの世界に覆い隠されたものがあるとするなら、それは「神の愛」なのです。「小さな一羽の雀」は当時、清めのために用いられた尊い犠牲を表し、それはイエス様の命であり、私たち愛に生きようとする一人一人の命を表しています。イエス様は、他でもない雀のような小さなあなたたちが、私の愛を運んでいくのですよ、と語っておられるのです。

●昨今のニュースを見ても、様々な悲惨な出来事、人の罪がこの世を覆っていることに気がつかされます。その只中で、常に不安や恐れを抱く小さな私たちですが、今日の主の言葉に勇気づけられ、主の愛を世に広める務めを共に果たしていきたい、そう願います。